

## 〈大韓民国からのメッセージ〉

### 女性問題は、資本主義を克服することによってのみ解決が可能だ

日本で3・8集会を組織している活動家同志のみなさん！ こんにちは。

3・8国際婦人デーを迎えて、韓国の労働社会科学研究所運営委員会が、日本の同志のみなさんに連帯のあいさつを送ります。

韓国はいま、コロナ・ウイルスの恐怖のなかで、三月七日に予定されていた国際婦人デーを迎えての全国労働者大会まで取り消しになりました。“キャンドル革命”の政府であることを自任する文在寅政権は、競馬を主管する国営賭博会社である韓国馬事会の不正と不当な仕打ちを告発・糾弾して自決した労働者の遺体を安置した焼香所の天幕まで、コロナ・ウイルスを口実にして暴力的に撤去してしまいました。労働者たちの集会は取り消しになっていますが、政権と資本の攻勢はむしろ強まっている状況です。

ニュースでは、韓国の出産率が二〇一八年の〇・九八%に続いて二〇一九年も〇・九二%に下落したという事実を深刻に報道しています。出産を奨励するために、二〇〇六年から政府が注ぎ込んだ財政が一八六兆ウォンに達するといいますが、出産率が低くなっている原因は、青年たちが現在の生活と未来を悲観しているからではないでしょうか？ しかも女性にさらに過重に加えられる妊娠・出産・育児にたいする負担、すなわち性差別主義が蔓延しているからではないでしょうか？

こうした状況のもとで、一部の若い女性たちを魅了している歪曲されたフェミニズムの波は、“メガリア (Megalia)” とか “ウォーマド (Womad)” \*とかいう男性嫌悪論者を生みだし、韓国男性を“韓男蟲”、非正規職男性を“繁殖脱落蟲”と呼びながら、自分たちもまた失業者であったり不安定労働者であったりする女性たちが、同じ境遇にある男性たちと毎日、指で戦争\*\*を繰り返しています。そのため、労働社会科学研究所は昨年からマルクス主義女性論セミナーをつうじて、フェミニズムが女性解放論と同義語ではないということ、男性に対立する女性を前提にするフェミニズムではなく、資本に対立する男・女労働者の団結が前提にならなければならないということ、女性抑圧の起源は女性の生物学的特性にたいする男性の支配ではなく、私的所有の発生・発展にともなう社会の経済的関係にあるということ、したがって女性問題はクララ・ツェトキン、ローザ・ルクセンブルク、アレクサンドラ・コロantaiのような先輩女性革命家たちの理論と実践によって証明されたように、資本主義を克服することによってのみ解決可能だということを力説しています。米軍政と親日・親米勢力によって作りだされ、朝鮮戦争と歴代ファッショ政権をへて強固になった新植民地国家の反共・反北・反ソのイデオロギーと、それを保障するファッショ悪法である国家保安法の撤廃のための活動もがんばって取り組んでいます。

\*訳注：“メガリア” (Megalia)、“ウォーマド” (Womad) は、女性優越主義を主張する韓国の男性嫌悪・性差別のインターネット・サイト)

\*\* 訳注：インターネット上での言い合い

二〇一八年からしばし吹くようだった南・北・米間の平和の風はすでに消え、ふたたび韓半島と東北アジアには緊張と戦争の幽霊がうろついています。第二インターナショナルの誤りを繰り返さないためにも、韓日労働者・民衆は戦争反対にたいして声をひとつにすることが要求されています。その道に労働社会科学研究所もともにすすみます。

万国の労働者よ、団結せよ！

二〇二〇年三月七日

労働社会科学研究所運営委員会

【訳＝土松克典】